

9. 5 おどるアンケート抄 : Q. 私の芸能体験?

旧 Twitter (現 X)「とある民俗学講師」

- * 芸能さまざま : 歌、楽器、舞踏、演劇、話芸…
- * 伝承母体としての「学校」: 音楽、体育、文化祭、コンクール、サークル…
- * 芸能の「機能」もしくは「効果」: 儀礼的目的、娯楽、通過儀礼、男女交際、異人歓待…
- * 芸能のヨロコビとは? : 存在承認されたい生き物としての人間

[!] 兵庫県神戸市の中学高校で、文化祭の装飾を手がける文化委員で、毎年文化祭前日に雨乞いの儀式をしていた。委員の一番偉い人が棒を天に掲げて寝転がり、他の委員が肩を組んでその人を囲むように並んで、ひたすら「レフメアンサクタ」と「ウンババ」と言う謎の呪文をリズムカルに唱えながら、肩を組んだまま飛び跳ねてぐるぐる回る、というものだった。先輩によれば、年々受け継がれており、翌日にやってくる雨雲を当日に持ってくる意図があったらしい。効果があるのかどうかは分からなかったが、無関係な人間も気が触れたようにぐるぐる回る我々を観察していた覚えがある。

[神楽] 小学生の時、地元の神楽団の子供神楽教室に参加した。その神楽団は安芸高田市を本拠地とし、月に一度ほど広島市の小学校に教室を開きに来ていた。神楽の役には、神、鬼、翁、太鼓などがあるが、私は神の役で、「塵輪」というスタンダードな演目を舞った。重い衣装を着て、重い刀を振り、口上を暗記するのにとても苦労した。

[ソーラン節] 小学5年の頃、学年全体でソーラン節を踊った。私がいた出雲市立塩谷小学校は県最大級のマンモス校で全校生徒800人超、1学年でおよそ140人弱、体育館全体を使って全力で踊った。本番は保護者の前でおどることになっており、自分たちが成長した姿を見せるのが目的だとされていた。実際に踊っている時は、親のことなど一切考えず、ただ全身全霊で体を動かす楽しさを感じた。いまだにソーラン節を踊っている時の興奮は覚えている。

[盆踊り] 兵庫県川西市の夏祭りで、盆踊りを踊った。曲は炭坑節がメインで流れていたが、倅田來未など、流行歌も含まれていた。中央の太鼓を取り囲む形で輪が形成され、皆、自由に輪の中に入ったり出たりしていた。大人が楽しそうに踊っているのを見、一瞬輪に入り、数分踊り、飽きたら出るというのを繰り返した。盆踊りとしての正解はわからないが、美しい踊りをする人を見て、どのように踊れば綺麗に見えるか考えながら踊ったり、逆に省エネでできるだけ小さい振りで踊ったり、あるいは何も考えずに踊ったり。周りの大人も自由にしていたとても楽しかった。

[六斎念仏] 小学生の時、「六斎クラブ」という、京都市下京区北西部の中堂寺地区の伝統芸能である「中堂寺六斎念仏」を行う部活に所属していました。京都に疫病が蔓延したとき、人々の不安を取り除くため、空也上人が始めたと言われ、現在では地域の夏祭りや小学校の学習発表会などで演じます。最もよくやるのが「四つ太鼓」。この演目は、1番から4番をたたいた後、複数人が5番を、テンポをあげつつ、パチの数、一度に打つ人数、最後には太鼓の数を増やししながら、リレー形式で何度も何度も打ち続ける、というものです。これには、場を盛り上げていく意味と、太鼓を打つ者同士でその技量を競い合う意味があります。同じリズムで打つと、抑揚のつけ方やリズムの正確さなどの違いがはっきりと表れるため、自分の前に打った人よりも正確に、より速く、より上手に打とうと、互いに競い合っていました。

[獅子舞] 僕の地元、兵庫県加西市網引町には獅子舞があります。3年に1回、地元の子供達が練習をして、神社で獅子舞を披露します。子供達は夏休みの間、獅子舞保存委員のような大人から厳しい指導を受け、10月の祭りの際、村の神社にある舞台上、村人達に獅子舞を披露します。伝統芸能に自分自身が参加出来た、いい機会でした。

[すりがね] 天理教の「おちばがえり」で、すりがねを演奏した。おちばがえりとは、天理教の信者が「ちば(神の起源の地)」に帰り、心を清めるための重要な行事で、毎年8月、奈良県天理市で行われている。祭礼の演奏体験に参加した際、すりがねを担当することになった。すりがねは金属製の小さな楽器で、独特な演奏方法が特徴的であったことを覚え

ている。当時は幼かったので、単純に演奏を楽しんでいた。

【歌舞伎】私の故郷の香川県琴平町には、現存最古の歌舞伎座・金丸座があります。私は小学6年のとき、学校行事の一環で子供木戸芸者をしました。「とざいとーざい(東西東西)」から始まる掛け声で、役者の真似をしながら演目や役者の説明をして客寄せしました。独特なイントネーションで大きな声を出すのは、初めは少し恥ずかしかったのですが、練習していくうちに全員で一体となっていき、本番では堂々で行うことができました。

【権六踊り】小学校高学年の頃、運動会で地元大阪府吹田市に伝わる「権六踊り」を踊りました。権六踊りは地元で伝わる盆踊りで、保存会の方々と小学校の5、6年生が運動会の演目として踊ることになっていました。地域の方が権六踊りの由来を描いた紙芝居をしてくださって、それによると、権六という宮大工がお寺の工事を終えたとき、自分が建てた建物の見事さに感動して、後ずさりしつつ手をかざして建物を仰ぎ見たそうです。その動作を見た村人たちが滑稽な踊りだと思って真似をし、その踊りが権六踊りとして今に伝わっている、ということでした。この地域の人間なのだと思感させてくれる大切な文化なので、失われることなく継承されていくことを願います。

【よさこい】中高生のとき、札幌のYOSAKOIソーラン祭りに参加した。もともとの民謡「ソーラン節」は大漁を祝うものだが、YOSAKOIソーラン祭りは歴史も浅く、地域振興が主な目的だ。予選は多くのチームが参加し、和気あいあいとした雰囲気だが、本選は、大学のサークルや地域の商店街が持つチームがしのぎを削りあうダンス大会のようにになっている。私はかなり本気で大賞を狙いに行くチームに所属していたため、踊った時間は人一倍だが、踊っているとき大漁を願ったことなど一度もなく、考えていたのは大賞のことだけであった。

【サムルノリ】高校の時、クラス全体で「サムルノリ」を練習して学園祭で公演をしたことがあります。サムルノリとは、チン（鉦）、ブク（鼓）、ケンガリ（小鉦）、チャング（杖鼓）の四つの楽器で演奏する韓国の代表的な伝統音楽の一つです。私はその時「チャング」を担当し、拍子に合わせて演奏しました。チャングとは、太鼓に似た韓国の伝統的な打楽器です。木の筒を砂時計の形に削り、筒の両側は革で埋められている構造で、両側を二つの異なる竹の棒で叩いて演奏します。両面から出せる音が竹の棒の形や打つ位置などによって変わるため、その音を活用して一定のリズムを作り出すことができます。サムルノリは、4つの異なる楽器が調和して音を出さなければならないため、チームワークがとても重要です。私もクラスも授業が終わったらいつも音楽室を借りて、2、3週間は毎日1、2時間練習をした記憶があります。トラブルもありました。しかし、最後は学園祭の公演を成功させ、担任の先生にも褒められてとても嬉しかったです。

【トーチワリング】中学2年の頃、愛知県豊田市で行われた野外学習のキャンプファイヤーで、トーチワリングを披露した。火を使ったパフォーマンスで、音楽に合わせてトーチ棒を手に持ちながら回転させたり空中で振り回すものである。はじめは火を体のすぐ近くで扱うことに恐怖があったが、練習を通して安全に行う技術を徐々に身につけた。火の軌跡は非常に美しく、体験している自分も幻想的な感覚に包まれたことが印象に残っている。

【音楽】11月祭で、ブルーグラスというアメリカ南部・アパラチア山脈発祥の伝統音楽を、京大吉田南キャンパス正門前で演奏した。私がリーダーを務めるバンドは三人編成で、私がアコースティックギター、一学年下の後輩がマンドリン、一学年上の先輩がベースをそれぞれ演奏。私は演奏に必死で観客の方に意識を向ける暇もなかった。実際、ブルーグラスはかなり難しい演奏技術が必要とされる。後輩が歌う歌の間に私と後輩が順番にソロをとった。後から自分たちの演奏をきいて、ひどくて聴けないほどではなかったが、至らない点も多く感じ、本場のプロ・ブルーグラスサーのようにインプロバイズしたり、グローヴを出したり、大きなミスなく弾ききるにはどうすればいいのだろうと、ずいぶん落ち込んだ。

【Tik Tok】妹に付き合わされてTik Tokの動画を1本とった。妹から簡単なフリを5分ほどで指導され、音楽に合わせて踊った。動画を撮るとすぐに妹の友達や私たちの共通の知り合いからコメントが来た。久しぶりに会話できて嬉しかった。